

A

2024, APRIL

[第2007回]

石橋を20年たたいで渡る

ヨハネス・ブラームス

Johannes Brahms (1833–1897)

バッハ、ベートーヴェンと並び「三大B」とも称される、ドイツの作曲家。ブラームスは、自分が生まれるより前に世を去った大作曲家ベートーヴェンの遺した9つの交響曲を意識するあまり、才能・実力・名声を手にしたあとも、どのような交響曲を書くべきか逡巡した。そして着想から20年あまりかけて、慎重にあなたためながらようやく世に出した《交響曲第1番》は、堂々たる記念碑的作品で、現代もなお不動の人気を誇っている。

ベートーヴェンの影にたじろぐ
慎重派なブラームス
イラストレーション: ©IKE

「新しい道」

音楽家として歩みはじめた若き青年ブラームスを、当時すでに名を成し影響力もあった作曲家シューマンが「新しい道」と題した記事で激賞した。一気に注目され、ベートーヴェンの後継者があらわれた！と高らかに喧伝されてデビューしたブラームス。チャンスをつかみ、躍進もしたが、「第2のベートーヴェン」という期待には想像もつかないプレッシャーを感じたことだろう。